

研究 主題	主体的に英語で自分の考えや気持ちを伝え合う授業を目指して － 3つの対話活動を取り入れた単元構成を通して－
----------	--

第5学年外国語学習指導案

指導月日 令和2年10月13日

所属校名 登米市立浅水小学校

氏名 H R T 及川 史子 (T1)

A L T Cassidy Schmidt (T2)

1 単元名 Unit5 Where is the post office? (東京書籍 NEW HORIZON Elementary English Course5)

2 単元の目標

自分の知りたい場所や位置を尋ねたり、相手を案内したりするために、場所や位置の尋ね方や答え方などについて、短い話を聞いてその概要が分かたり、伝え合ったりすることができる。アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。

※なお、本単元における「書くこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)第10節外国語第2英語1目標(1)聞くこと「ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする」(3)話すこと[やり取り]「イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする」に基づいて設定したものである。

この単元は、Where is the ~?の表現を用いて、建物の場所や物の位置を尋ねたり、道案内をするときに使用するGo, Turn, Straight, Right, Leftや、位置関係を表すby, in, on, underの語句を用いて、場所や物の位置を答えたりするなど、互いに伝え合う内容になっている。単元の終末に、オリジナルの町を作成し、みんなで道案内をする活動をゴールと設定することで、目的を持って主体的に学習に臨むことができる単元となっている。

4 児童の実態〔第5学年1組14名〕

7月末実施の外国語の意識調査では、前回の意識調査同様「英語が楽しい」と全員が回答しており、英語の学習に対しての意欲が高い。また、「英語がもっと聞き取れるようになりたい」13名、「英語で会話がもっとできるようになりたい」12名の児童が回答しており、英語の力を高めたいという気持ちを持っている児童が多い。一方で、英語を話す必要性を感じていないと回答した児童が2名おり、地域的に外国人との関わりが少ないことが理由として考えられる。

普段の授業では、児童は新出の語句や基本表現の練習など、A L Tの発音をよく聞いて、真似しながら一生懸命取り組んでいる。しかし、個々に声を出す場面やペアでのやり取りの場面になると、間違うことを恐れ不安になり、声が低くなったり、教師に語句や表現を一つ一つ確認したりする児童が増えてくる。新出語句や表現を身に付けさせるために、慣れ親しむ段階で繰り返し聞かせたり、話させたりすることが必要である。また、相手に伝わるように工夫して話すことや、相手の話す内容に対して的確に反応することができない児童も多く、相手意識を高めることも課題である。

5 指導観

児童が主体的に自分の考えや気持ちを伝え合うには、児童がやってみたいと思える単元のゴールを設定し、段階的に言語活動を配置した単元構成にしていくことが大切である。単元の中に、3つの対話活動[教師と児童の対話][児童と児童の対話][自己との対話]を効果的に取り入れることで、児童の伝え合う力を育成していくことができると考える。

本単元では、終末に「友達にドリームタウンを道案内しよう」の言語活動を設定し、友達にグループごとに考えたドリームタウンを道案内する。毎時間の導入でSmall Talkを行い、会話を続けるための基本的な表現に慣れ親しませていく。展開では、道案内に必要な語句や表現を、自信を持って活用していきけるようサポート役を入れ、教え合いながらスモールステップで定着させていく。また、単元のゴールの活動の前に、グループ内で道案内をし、本単元の基本表現を活用しながら身に付けさせる場を設定する。それらの活動が全て単元のゴールにつながっていくことを意識させ、単元の見通しを持って学習に取り組めるよう学習カードを活用していく。

6 研究主題との関連

研究テーマ 主体的に英語で自分の考えや気持ちを伝え合う授業を目指して
－ 3つの対話活動を取り入れた単元構成を通して－

手立て1 【教師と児童の対話】Small Talk を活用した発話モデルの提示

- ・授業の初めにALTと教師、又は教師と児童の会話を聞かせ、対話を続けるための基本的な表現（繰り返し、確かめなど）に触れさせる。実際に体験させてイメージを持たせ、相手の話した内容に対してコミュニケーションに必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）を意識させる。

手立て2 【児童と児童の対話】児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定

- ・児童の実態を踏まえ、児童が「言いたい」「伝えたい」と思う言語活動を考える。その際、児童同士のやり取りの場面を段階的に設定し、聞くことを通して慣れ親しんだ英語表現（既習表現、新出表現）を、目的や場面に合わせて活用しながら定着させる。

手立て3 【自己との対話】単元の見通しを持ち、振り返りができる「学習カード」の活用

- ・単元の学習の流れと言語活動の積み重ねを児童と教師で共有できる「学習カード」を活用し、見通しを持って取り組ませる。また、自己の学習の振り返りをさせ、何ができるようになったか、次に何を身に付けるべきかを明確にして、次時の学習へつなげる。

7 単元の指導と評価の計画

[単元の評価規準]

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> [Where is ~?, Go straight for ~block(s)., Turn left/right., It's by/in/on/under~., You can see it on your left/right.およびその語句など]について理解している。 <技能> ものの位置や場所の尋ね方や答え方について、聞き取る技能を身に付けている。	自分の知りたい場所や位置を尋ねたり、相手を案内したりするために、場所や位置の尋ね方や答え方について、短い話の概要を捉えている。	自分の知りたい場所や位置を尋ねたり、相手を案内したりするために、場所や位置の尋ね方や答え方について、概要を捉えようとしている。
話すこと やり取り	<知識> [同上]について理解している。 <技能> [同上]の基本表現を用いて、行きたい場所について尋ねたり答えたりして、伝え合う技能をおおむね身に付けている。	自分の知りたい場所や位置を尋ねたり、相手を案内したりするために、簡単な語句や基本表現を用いて伝え合っている。	自分の知りたい場所や位置を尋ねたり、相手を案内したりするために、簡単な語句や基本表現を用いて、伝え合おうとしている。

[単元の全体計画] (全8時間扱い 本時6/8)

時間	目 標	帯活動	学 習 内 容	主な評価規準
1	○場所を尋ねたり答えたりするやり取りを聞いて、内容を理解できる。	授業の導入での Small Talk 「教師と児童の対話」、学習カードの活用「自己との対話」	Starting Out 道案内のやり取りを聞き、行き方を尋ねたり、答えたりする表現を知る。 【Let's Chant】 チャンツをしながら動作で表現し、語句や表現のイメージを持つ。 Go straight, block, turn, left, right	1, 2, 4の時間では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
2	○物の位置を尋ねたり答えたりするやり取りを聞いて、内容を理解できる。		【Let's Try1・2】 音声を聞き、ものの位置を表す表現の使い方を 知る。 【Let's Watch and Think】 場所を表す外国の記号についての動画を視聴し、 どこの場所を表しているのか考える。 【Sounds and Letters】	
3	○探しものがどこにあるのかを、話を聞いて見付けることができる。		Your Turn ○位置を表す表現 by, in, on, under を動作で表現し、 語句のイメージを持つ。 【Let's Listen1】 部屋の中にある物を、話を聞いて見付ける。 【Sounds and Letters】	【知・技】 [聞くこと]
4	○探しものがどこにあるのか尋ねたり答えたりできる。		【Let's Try3】 さがし物がどこにあるのか尋ね合う。 ○「もの探しゲーム」を行う。by, in, on, under を活用する。 [児童と児童の対話] “Where is the ～?” “It's by the blackboard.”	
5	○道案内の説明を聞き、案内された場所へ行くことができる。		○教師の道案内の説明を聞き、どこの場所へ案内しているのか地図上に線を引く。 “Go straight for ~block(s).” “Turn left/right.” “You can see it on your left/ right.” ○上記の活動を、グループで作成したドリームタウンの地図を活用して行う。 [児童と児童の対話] 【Sounds and Letters】	【思】 [聞くこと] 【主】 [聞くこと] 〈行動観察・学習カード〉
6 (本時)	○行きたい場所について、尋ねたり答えたりできる。		○ドリームタウンの地図を活用し 【Let's Try4】 のように、 道案内の役割演技をする。 “Where is the ~?” “Go straight for ~block(s)” “Turn left/right.” “You can see it on your left/ right.” ○ペアで道案内し合う。 [児童と児童の対話] “Excuse me.” “Yes?” “Where is the ~?” “Go straight ~” “Thank you.” “You are welcome.”	【知・技】 [やり取り] 〈行動観察・学習カード〉
7 8	○オリジナルの地図で道案内をすることができる。		Enjoy Communication ○グループごとに地図を活用し、友達の行きたいドリームタウン内の場所へ道案内をする。 [児童と児童の対話]	【思】 [やり取り] 【主】 [やり取り] 〈行動観察・学習カード〉
Our Goal 友達にドリームタウンを道案内しよう				

8 本時の指導

(1) 本時の目標

行きたい場所について、尋ねたり答えたりできる。

(2) 指導に当たって

手立て1【教師と児童の対話】Small Talk を活用した発話モデルの提示

コミュニケーションに必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）を児童に意識させるため、ALTと教師のSmall Talkの際に、コミュニケーションカードを活用し、教師の反応に合わせて児童も一緒に反応させる。また、児童同士の対話の際に、やり取りを続けることができるよう、教師と児童の対話の場面で、教師が児童の言葉を繰り返したり、褒めたり、励ましたりして見本を見せる。

手立て2【児童と児童の対話】児童が興味・関心を持つ言語活動の場面設定

児童が「言いたい」「伝えたい」と興味・関心を持って活動に臨めるよう、本時の活動までに児童に建物や施設の絵をカードに描かせ、ドリームタウン内の好きな場所にカードを設置できるようにし、グループで相談させた。また、児童が安心して英語を話す環境にするため、サポート役を入れ、教え合いながら基本表現を定着させるようにする。

手立て3【自己との対話】単元の見通しが持て、振り返りができる「学習カード」の活用

児童が毎時間の学習に目的意識を持ち、学習の積み重ねや自己の成長を感じることができるよう学習カードを工夫して作成する。また、相手を意識して対話ができるよう、コミュニケーションの際に必要な項目（笑顔で、目を見て、自分から、反応は）をチェックし、意識させる。

(3) 指導過程 別紙参照

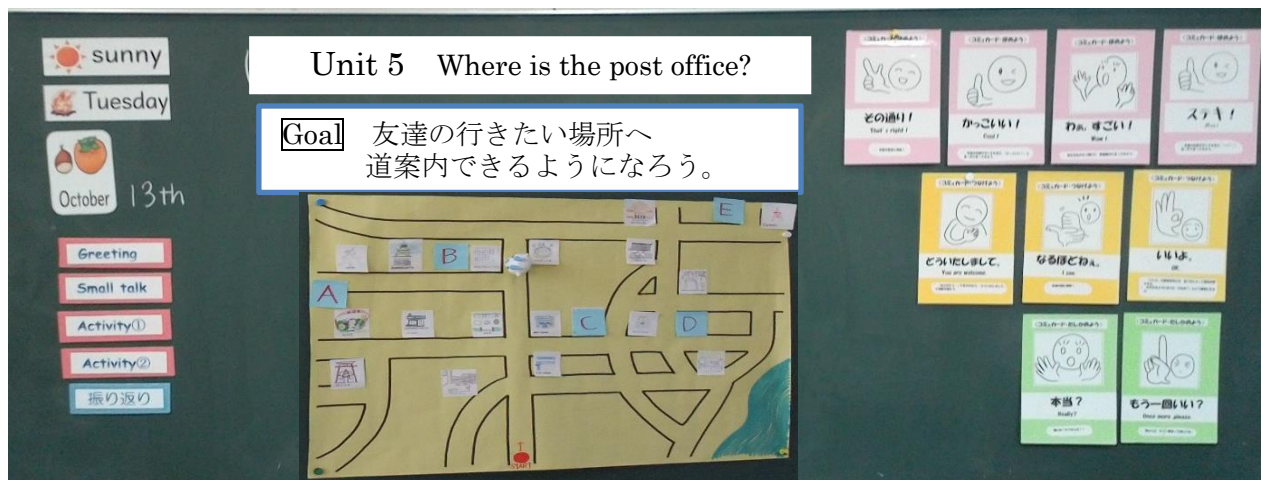
(4) 本時の評価 評価の観点 話すこと〔やり取り〕〈行動観察・ワークシート・学習カード〉

	十分満足できる（A）	満足できる（B）	努力を要する児童（C）への手立て
知・技	基本表現を正しく用いて、行きたい場所の尋ね方や答え方について、伝え合う技能を身に付けている。	基本表現を用いて、行きたい場所について尋ねたり答えたりして、伝え合う技能をおおむね身に付けている。	道案内の表現に戸惑う場合には、ジェスチャーやピクチャーカードを示して、表現を思い出させる。

(5) 準備物

電子黒板、コミュカード、ピクチャーカード、地図、学習カード

(6) 板書計画



(3) 指導過程 (別紙)

段階	主な学習活動 使われる英語表現	指導上の留意点		評価の観点 (評価方法) ・準備物
		HRT (T1)	ALT (T2)	
導入 13分	1 Greeting 2 Small Talk (1) HRT と ALT の話を聞く。	○児童の反応を見ながら、挨拶を進める。 (天気・曜日・日付) ○本時のキーワードになるところを強調したり、ジェスチャーを入れて分かりやすくしたりする。 ○対話の流れを一緒に確認できるよう、Small Talk で児童も一緒に反応させる。 手立て1① ○コミュニケーションのポイント「Smile, Eye contact, Clear voice, Response, Gesture」を確認し、相手意識を高めさせる。	○児童の反応を見ながら、挨拶を進める。 (天気・曜日・日付) <	

終 末 10 分	(2) グループで、それぞれの行きたい場所へ道案内をし合う。(3～4人グループ) “Excuse me.” “Yes?” “Where is the～?” “Go straight～” “Thank you.” “You are welcome.” (3) 黒板に掲示してある地図を使って、道案内をする。 5 実際の道案内に近付けた地図を使い、道案内をする。 (1) A L Tと教師のデモンストレーションを見る。 (2) 実際に道案内をし合う。 6 本時の振り返り (1) 本時で活用した基本表現を声に出して振り返る。 (2) 学習カードに振り返りを記入する。 (3) A L Tからの話を聞く。	返し声に出させ、自信を持たせる。 ○ “Excuse me.” から始まる対話の流れを意識させる。 ○ 道案内し合う児童以外はサポート役になることを伝え、悩んだ時には教え合って道案内を成功させるよう言葉掛けをする。 手立て2② ○ グループを指名し、道案内をさせる。行きたい場所は他の児童を指名し、決めさせる。 ○ 道案内終了後、やり取りを見ていた児童に、簡単な感想を言わせる。 ○ 次時の Our Goal につなげるよう、地図上の施設を隠し、道案内される側は、施設の場所が分からないようにする。 ○ デモンストレーションに、児童も関わらせる。 ○ 希望者に、道案内をさせる。悩んだ時には、友達に助けを求めてよいことを伝える。 ○ 待っている児童には、どこへ案内しているのかを聞き、地図上を目で追いながら、目的地を想像させる。 ○ 本時で活用した基本表現が定着できたか確認させる。 ○ 本時のめあてに対してできたかどうか振り返りをさせる。その際、授業の初めと終わりでの自分の違いにも気付かせるよう言葉掛けする。 ○ 相手を意識して対話できたかどうか、コミュニケーションに必要な項目も振り返らせる。 手立て3①② ○ A L Tに褒められたことを児童と一緒に喜び、ゴールへ向けての意欲付けを行う。	大切だということを示す。 ○ ゆっくりから徐々に速めになるよう繰り返し基本表現を練習させる。 ○ 悩む児童にジェスチャーを見せたり、ピクチャーカードで示したりして表現を思い出させる。 ○ 道案内するグループのサポートに入る。 ○ 発話にまだ不安な児童の見本になるように、リズムよく基本表現を繰り返させる。 ○ 振り返りを書き終えた児童に、基本表現を活用して声を掛け、より多く英語を話す機会をつくる。 ○ 本時での児童の頑張りを、簡単な英語表現を用いて褒め、児童の自己評価を高めさせながら、次時の学習への意欲付けを行う。	【知・技】 話すこと ア [やり取り] 〈行動観察〉 ・学習カード
-----------------------------	---	--	--	--